

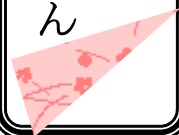
# すまいるたうん



発行元  
東京新聞  
南千住東口専売所  
TEL 5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL 090-2657-0300

## ちりめん語り場

### ビューティサロンぼたん



「座って髪を結っていたので」

ビューティサロンぼたんは、ジョイフル三ノ輪が新開地と言われた大正時代から続く美容院です。

「立てばシャクヤク、座れば牡丹」のこ  
とわざから、ぼたんの名前が付きま  
した。現在は三代目の齋藤理恵子さんが祖母  
・母の守ってきた店をひとりで切盛りし  
ています。

大正時代は、警察の許可がおりれば営  
業できました。終戦後は美容師国家試験  
ができ、お母さんの矢島チヨさんは第一  
回の合格者です。昔は、カタカナでの名  
前がハイカラだったとチヨさんから理恵  
子さんは聞いていました。チヨさんは、  
玄関を拭いて土間を掃いてから登校して  
いました。女に学問はいらぬという時  
代でしたので、女学校に進むこともまま  
ならず、小学校卒業してからずっと仕事  
していました。

「ピンカールを巻いてお客様は帰っ  
て行きました」

昔は、銭湯帰りによってカーラーを巻  
いて帰るお客様も多く、またカーラーを

巻いたまま朝に来て髪をセットして仕事  
に行かれていたそうです。また、何時に銭  
湯からお客さんがいらっしやるかわからな  
いので、夜10時くらいまでは営業していま  
した。働くことに厭わぬ時代でした。

「今度の七五三の帯結びはどんな形  
にしようか」

チヨさんは、78歳で亡くなる直前まで、  
病室で仕事のことを考えていました。

「駅の階段の上り下りができるうちは」

草加から来られる87歳の方や、息子さん  
の車に乗って来られる97歳の方もいます。  
また、七五三の仕度をした子が高校生になっ  
てからもいらしています。しばらく来店され  
ないお客様がいると何かあったのではと心  
配になります。「風邪をひいてしまつて」  
と連絡が来ると安心されます。

祖母から母へそして理恵子さんに受け継  
がれた仕事と大正から昭和・平成にかけて  
の理恵子さん家族が築きあげた信頼関係で、  
娘さんの七五三の着付けから娘さんのお子  
さんの七五三の着付けまで、親子三代人生  
の折々をぼたんのお世話になった方達もお  
ります。

「シャッター閉めていても」

その店の隣に理恵子さんは、ご主人の協  
力を得て趣味のちりめん細工の展示場を作  
りました。お母さんのチヨさんやお祖母さ  
んの着物が押し絵やちりめん細工に変身し



て飾られています。  
部屋の中央にある  
吊るし雛は、5組あ  
ります。1組が5列  
5個に加えて真中に  
3個の28個の雛があ  
ります。

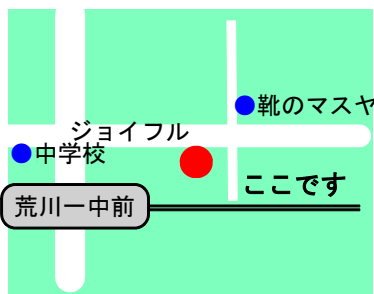
「あんたの一生の趣味になる」

お母さんのチヨさんは、理恵子さんがや  
りたいことに協力してくれました。また今  
では、お客さんが布を持ってきてくれてタ  
ンスには色とりどりの布が埋まっています。

「多くの人に見ていただければ」

理恵子さんの前向きな温かさに触れて、  
作品の美しさに触れると心が豊かな気持ち  
になれます。お客さんが作ったフェルトの  
お菓子もテーブルに置かれて、イスに座っ  
てゆっくり鑑賞できま  
す。

ちりめんが語る場所  
で静かな時間をお過ご  
してください。



ビューティサロンぼたん  
南千住1-21-5  
9時~17時  
定休日 火曜水曜  
TEL (3891) 3086

